

<実践事例9>

# 「体を動かそうキャンペーン」

札幌市立北陽中学校

## 1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

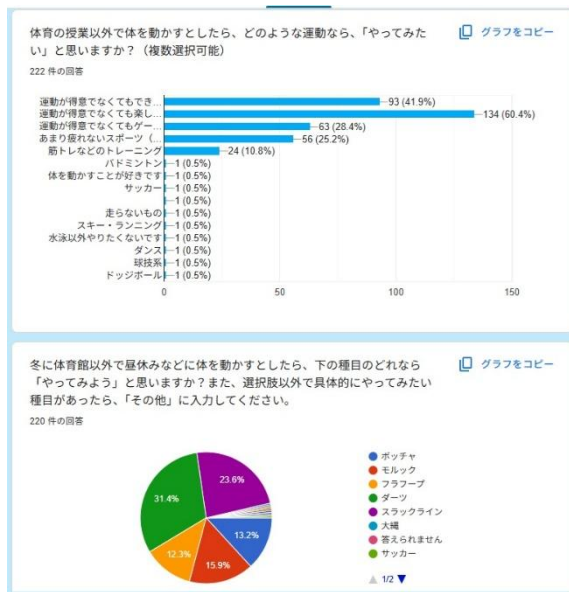
令和6年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果より、運動やスポーツをすることが好きな生徒が多いが、男子は瞬発力や敏捷性、女子は筋力や筋持久力、瞬発力、敏捷性を維持する力を図る項目で札幌市の平均を大きく下回った。また、パートナー校と各校の調査結果の分析を交流し、本校区の児童生徒の体力向上に関する特徴を検討したところ、小学校と中学校で子どもの体力・運動能力について大きく変化することが確認された。

	札幌の平均値と同程度または上回った項目 <sup>①</sup>	札幌の平均値を大きく下回った項目 <sup>②</sup>
R6年 中2 <sup>③</sup>	「運動やスポーツをすることが好き、やや好き」 本校 男子 91.7% 女子 77.0% <sup>④</sup>	「体育の授業があまり楽しくない、楽しくない」と回答した生徒の割合 <sup>⑤</sup> 本校 男子 8.8% 女子 24.7% <sup>⑥</sup>
R5年 中2 <sup>③</sup>	「運動やスポーツをすることが好き、やや好き」 本校 男子 89.4% 女子 75.7% <sup>④</sup>	体育の授業を除く、1週間の総運動時間が60分未満の「ほとんど運動しない生徒」の割合 <sup>⑤</sup> 本校 男子 14.7% 女子 20.9% <sup>⑥</sup> ※札幌市の平均より低い <sup>⑦</sup>
R4年 中2 <sup>③</sup>	「運動やスポーツをすることが好き、やや好き」 本校 男子 85.3% 女子 76.9% <sup>④</sup> ※男子は下回っている <sup>⑧</sup>	体育の授業を除く、1週間の総運動時間が60分未満の「ほとんど運動しない生徒」の割合 <sup>⑤</sup> 本校 男子 21.8% 女子 26.3% <sup>⑥</sup>

そこで、本校の生徒の特徴を見出すために令和4～6年度の調査から経年変化から運動やスポーツをすることが好きだが、体育の授業を除く運動時間が少ないという傾向が見られた。「好き」という思いが実際に体を動かす時間につながっていないことが「体育の授業が楽しい」と感じられない1つの要因になっていると考えた。

## 2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の分析とパートナー校との交流から、運動しやすい環境や運動が苦手な生徒でも「やってみよう」と思うことができる環境の整備と、小学校から中学校での運動能力の特徴の違いの要因と考えられる運動系の部活動（運動が好きな生徒）の冬のトレーニングに役立つと思うことができる環境整備を行うことにした。全校生徒の声を生かし、効果的な環境整備を行うために、GoogleFormsを用いてアンケートを行った。



### 3. 備品購入後の活動の様子

【運動が苦手な生徒のアンケートから購入したもの】

購入物品	金額
ソフトダーツボードセット（1セット）	4,400円
ダーツスタンド（1脚）	8,800円
モルックセット（1セット）	16,016円



【運動が好きな生徒（運動系部活生徒）の  
アンケートから購入したもの】

購入物品	金額
スポーツタイマー（1台）	41,800円
スポーツタイマースタンド（1脚）	9,680円
トレーニングチューブ（3種類 各20本）	90,960円



【生徒企画の学年行事で活用】

購入物品	金額
フィットネスロープ（50本）	41,800円



運動が苦手な生徒のアンケート結果から購入した物品は体育常任委員会で管理運営し、校舎のロビーや空き教室で昼休みに体育館等以外で使用するようにした。また、生徒が選んだ物品の希望とアンケートで質問した運動が苦手な生徒でも「やってみたい」と思うことができるような物品を購入し、気軽に簡単にできるものを選択した。

運動が好きな生徒のアンケート結果から購入した物品は体育文化振興会で管理し、必要な部活動生徒が共同で使用できるようにした。購入した物品は、限られた校地内で少ないスペースでも安全、かつ成長期である生徒の体に過度な負担がかからないものを選択した。

### 4. 課題の改善状況

今回のアンケートで最も生徒の声を多く集めたのは、ポッチャであった。購入を考えたが、この数年使用されていないポッチャ3セットが本校に眠っていたことがわかり、別の物品を購入できた。また、ポッチャやソフトダーツを目指して昼休みに集まる生徒も多く、新たな生徒の昼の過ごし方になりつつある。また、今年度猛暑実施できなかった体育行事の代わりに学年ごとで生徒が企画して行った体育イベントではなわとびの本数が足りず実施が懸念された種目を今回の物品として購入し生徒の「したい」を実現できた（その後は部活動のトレーニング用品として使用）。また、生徒の利用状況や効果を数値化した方がより有効性明確化することができたと考える。



# 「楽しい体力向上を目指して」

札幌市立新陽小学校

## 1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

児童会の運動委員会の子どもたちが、体力テストの結果を活用したり、過去の体力テストのデータを比較したりして、本校の運動能力の課題を絞り込んだ。

### 《本校の運動能力の課題》

- ◆20mシャトルラン ⇒「体力・スタミナがない」⇒『持久力をつけなきゃ!』
- ◆50m走 ⇒「加速が足りない」⇒『瞬発力をつけなきゃ!』
- ◆上体起こし ⇒「パワーがない」⇒『筋力(特に、腹筋)をつけなきゃ!』

お昼の放送を活用し、全校児童に本校の運動能力の課題について、運動委員会からアピールし、全校で体力向上を促す声掛けを行った。



## 2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

さらに、運動委員会の子どもたちが、本校の課題である『持久力・瞬発力・筋力』をどのように向上させていくべきか話し合いを行った。

- ◆楽しく運動できないと続かないよ。
- ◆運動器具があるとより楽しそうだよ。
- ◆いつでもできるように常に設置してあるとよりいいね。

具体的に、どんな運動器具があるといいかについても話し合いを行った。

・ランニングマシン ・トランポリン ・ダンベル ・ボルダリング ・ブレイズポッド  
等が候補として挙げられた。

また同様に、教職員からも、本校児童にとって必要な運動器具について希望を募った。

・エアロバイク ・ケンケンパリング ・巨大リバーシ ・リアクションボール  
等が希望として挙げられた。

その中から、購入可能な『9つの運動器具』を選定し、その中から、あったらいいなと思うものを

全校児童にアンケートをとり、安全面等を考慮し、実際に購入していく運動器具を決定した。

《アンケート結果から》

- ◆トランポリン【100cm】 3台(単価 16,600円 税別)
- ◆リアクションボール 20個(単価 2,280円 税別)
- ◆巨大リバーシ 4セット(単価 5,775円 税別)
- ◆跳び縄練習台【小】 1台(単価 34,000円 税別)
- ◆ドーナツディスク【6個組】 4セット(単価6,200円 税別)



トランポリン



リアクションボール



巨大リバーシ



跳び縄練習台



ドーナツディスク

### 3. 備品購入後の活動の様子

トランポリン3台は、多目的室に常設し、休み時間にいつでも使用できるようにした。リアクションボールは、クラス数分購入したためクラス保管とし、ワークスペースや空き教室等を活用し、広い場所でいつでも使用できるようにした。巨大リバーシや跳び箱練習台、ドーナツディスクについては、必要な時に使用できるように、職員室や体育館器具室で保管することにした。

「体が浮く感じが気持ちいい！」と言って何度もトランポリンに挑戦したり、窓の手摺りに掴まって新しい跳び方を開発したり、楽しみながら取り組む子どもたちの姿が見られた。また、リアクションボールや巨大リバーシでは、「想像していたよりハァーハァーするけど、なんか楽しい！」と言って夢中になって取り組んでいる子どもたちの姿も見られた。

どれも子どもたちがニコニコ笑顔で楽しみながら、いつの間にか体力向上に取り組んでいる様子が印象的だった。



### 4. 課題の改善状況

◆令和7年度アンケート「体育の授業は楽しいですか？」

	肯定的な回答	否定的な回答
令和6年度	89%	11%
令和7年度	95% ↑	5%

95%の児童が、体育の授業を楽しんでいると感じている。これは前年度結果より6%上昇している。日常から運動できる場や時間を増やしたことで、運動そのものに対して楽しさを感じ始め、体育の授業にも楽しさを感じている子どもが増加したと思われる。次年度新設される体力向上委員会を中心に、更なる有効活用を目指していきたいと考えている。

# 「子どもの声から生まれた運動週間」

札幌市立和光小学校

## 1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

前年度の体力・運動能力・運動習慣等調査の結果から、握力以外の結果が全国平均より下回っていることが分かった。持久力や投力、瞬発力等を高める運動機会を設ける必要があると考えられ、今年度から児童会活動に体力向上委員会が設置された。

最初の委員会で今の運動に対する児童の実態を話し合ったところ、「休み時間に体育館で遊ぶ児童が固定化されていること」「授業時間以外の時間で運動する習慣がない児童もいること」などが挙げられ、児童によって運動に対する意識が異なることが課題に挙げられた。

## 2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

委員会で、得意不得意に関係なく運動したいと思える空間を作るにはどうしたらいいのかを考え、様々な運動週間が企画された。また、高学年児童を対象に、「どんな空間があれば運動意欲が向上するのか」「体育館がどんな場所になると休み時間に遊びに行きたくなるのか」についてアンケートを行ったところ、「鬼ごっこ以外の遊びができる空間」「フラフープ」「トランポリン」「輪投げ」「運動できるものがいっぱいある空間」「いろいろな道具が置いてある楽しい空間」などの回答が多く寄せられた。多くの回答の中から実現可能なもので、普段運動しない児童でも体育館に行くきっかけになるものは何かを考え、「トランポリン」や「輪投げ」などを購入した。

◎購入した物品



ジャンピングシェイプ中・大 各2個  
¥80,300



輪投げ 2個  
¥39,600



スカッドキッズ 15個  
¥39,600

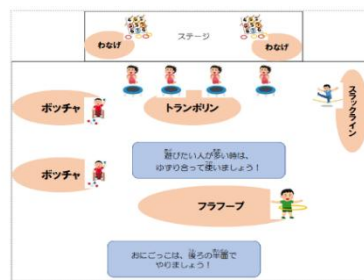
※スカッドキッズは、損壊しているものが多かったため購入。

### 3. 備品購入後の活動の様子

「冬の運動遊び週間」と称して、運動週間を2月2日～2月20日の間に実施。体育館の半面を使い、右図の形で場所を設けた。

購入した物の他にも運動できるコーナーを設けたことで、体を動かす機会が減ってしまう冬でも、休み時間の運動の幅が広がった。

体育館の見回りをしていても、普段は体育館に来ていない児童の姿も多く見られた。



1・2・3年生がトランポリンを楽しむ様子



4・5年生が輪投げを楽しむ様子



6年生がポッチャを楽しむ様子



1年生がフラフープを楽しむ様子



4・5年生がトランポリンを楽しむ様子



1・2・3年生がスラックラインを楽しむ様子

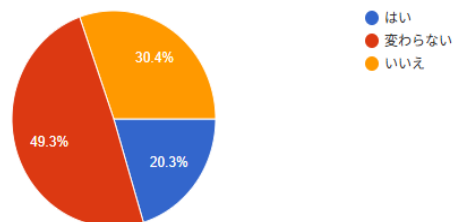
### 4. 課題の改善状況

全学年が、この週間を通して他の学年との交流を楽しむ様子が見られた。

この運動週間の間、体育館に行く機会が増えたかどうかのアンケートに対して、「今までどおり変わらず体育館に行っている」と答えた児童が49.3%、「いつもより体育館に行くことが増えた」と答えた児童が20.3%という結果になった。

子どもたちからは、「いろいろな運動週間をもっと作ってほしい」「いつもよりも体育館に行く機会が増えた」「来年もせられ、この運動週間の成果が見られた。

本校の教諭からも「いつもより休み時間に子どもたちが体育館に積極的に行くようになった。」「鬼ごっこ以外の遊びの選択肢が増え、得意不得意に関係なく遊ぶ様子が多く見られて良かった。」などの声が寄せられた。この運動週間を通して、授業以外で子どもの運動機会を創出するためには、環境整備を充実させることが重要であると分かった。次年度以降も、子どもの声を聴き、運動の楽しさにふれることを重視しながら、本校児童の「健やかな体」の育成を進めていきたい。



<実践事例 12>

「体育の学習と休み時間（マット・とび箱週間）を結びつける場を創る」

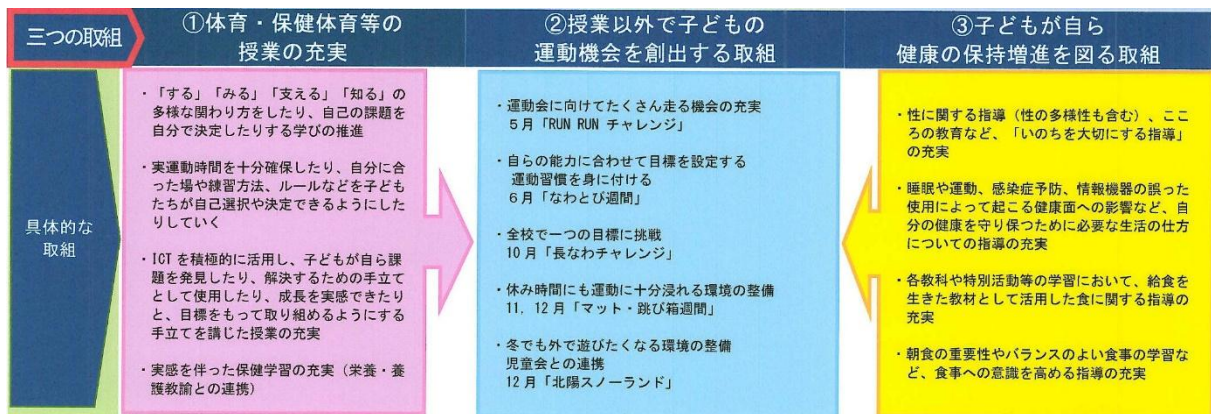
札幌市立北陽小学校

1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

◆体力テストの結果分析から

	令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	○札幌市の記録と同程度もしくは上回った種目 上体起こし、50m走、ソフトボール投げ	○札幌市の記録より下回った種目 握力、長座体前屈、 反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳び	・男女共に瞬発力や筋力などが求められる種目が札幌市の記録より上回っており、RUNRUN チャレンジや休み時間の取組が成果を上げている。
体力・運動能力 <女子>	○札幌市の記録と同程度もしくは上回った種目 上体起こし、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げ	○札幌市の記録より下回った種目 握力、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び	・男女共に柔軟性や敏捷性などが求められる種目が札幌市の記録より下回っており、ストレッチや器械運動などの取組を工夫する必要がある。
運動・スポーツへの意識、運動習慣	・「運動やスポーツをすることが好き」と回答する子どもの割合 札幌：男93.7% 女85.9% 北陽：男88.9% 女88.6%	・「できなかったことができるようになると体育が楽しいと感じる」と回答する子どもの割合 札幌：男95.8% 女95.9% 北陽：男92.6% 女95.5%	・個に応じた目標や場の設定、授業時間外でも子どもが主体的に運動に向かえる場の設定などにより自らの成長を実感する手立てが効果的である。

◆令和7年度「健やかな体」育成プログラムから



2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

◆課題解決のための教師からの働きかけ

1のような状況を5・6年生の児童に報告し、授業以外で子どもの運動機会を創出する「〇〇週間」といった取組の中で、何かできることはないだろうか？と投げ掛けた。子どもから「体の柔らかさを測定できるコーナー」「台上前転をするのに恐怖感があるので、逆上がり補助器具みたいものがあるとよい」等、が出てきた。そこで、子どもたちのつぶやきをより進めていくための助けになりそうな器具をいくつか提案した。「柔軟性」を簡単に測定できる「長座体前屈測定器」、台上前転の補助器具「台上前転用補助パッド」等である。マット週間や跳び箱週間で、児童が楽しみながら活動できる場を設置した。

### 3. 備品購入後の活動の様子

#### ◆購入した物品



【長座体前屈測定器】 6台 133,232円



【台上前転用補助パット】 2台 50,000円

#### ◆活動の様子

いつでも柔軟性を測ることにチャレンジできる場の創出

※マット週間や体育館に備品を設置し、いつでも誰でも使用できるようにした。



台上前転の練習で恐怖心を和らげ、安心して台上前転できる場の創出

※跳び箱週間の台上前転の跳び箱に備品を設置し、練習できるようにした。



### 4. 課題の改善状況

#### ◆令和7年度12月に実施した児童アンケートより

		している	たいたいしている	あまりしていない	していない
問7	自分から進んで遊んだり、運動したりしていますか	58%	29%	11%	2%
問8	めあてや目標をもって運動していますか	46%	37%	12%	5%

全校児童の約87%の児童は、自分から進んで運動していると答えている。これは、前年度のアンケート結果より9%上回っている。また、「めあてや目標をもって運動していますか」のアンケートには、約83%の児童がめあてや目標をもって運動していると答えている。これも、前年度のアンケート結果より9%上回っている。日常から運動できる場や機会を増やしたことにより、めあてや目標をもって運動する児童が増えたと考える。また、運動機会を増やしたことによって、自分から進んで運動している児童が増えたと考える。

次年度からは、今回の購入品の有効な活用方法について、年度当初から体育科の授業や児童委員会の企画等で活用することを視野に入れて、更に検討していく。

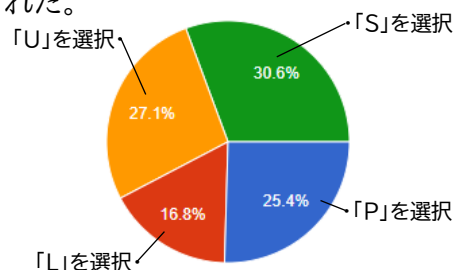
# 「校区で取り組むスマイルプロジェクト」

## 札幌市立平岡緑中学校

### 1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

#### I. 全国体力・運動能力・運動週間状況調査の結果

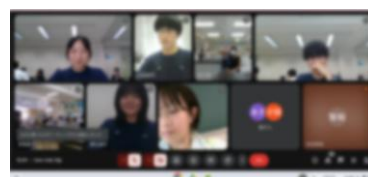
平岡緑中学校では令和5年度、6年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から、「体育の授業を除く1週間の総運動量が60分未満の「ほとんど運動しない子ども」の割合が男子7.9%、女子23.3%という現状がある。この数値は特に女子について全国平均を上回っており、本校の課題として「健やかな体」育成プログラムにも位置付けてきた。一方で「運動やスポーツが好き」と回答する生徒はR5、R6で男女共に全国平均を上回っていることから、「運動は好きだが、機会がない」という本校の課題が見えてくる。この現状について、生徒会や委員会を中心に検討を進めると、「体育館を利用する生徒はいつも同じ」という「運動する生徒の固定化」が原因ではないかと考えられた。



児童会・生徒会共通目標アンケート結果

#### II. 小中で連携して実施するスマイルプロジェクト

平岡緑中学校区の3校（平岡公園小学校・三里塚小学校）では、今年度よりランドデザインを改定し、各分野での小中一貫した教育の具体的な取組を実施している。運動機会の充実も同様に小中一貫した教育の一環として位置付けることで、各校バラバラの取組ではなく、9年間を見通した共通の目標、共通の子ども像に向かって取り組むことが可能となった。今年度は「プラスのまほう」の中から、特に「S:スマイル」を校区の重点として設定をしたため、運動機会の充実を通して、校区の児童生徒の「笑顔」が増える取組という視点から検討を行った。具体的な取組として、子ども同士のつながりである「児童会・生徒会オンラインミーティング」、教職員同士のつながりである「小中連絡協議会」の開催が挙げられる。これらの場面で情報交流を図ったり「ALPHA」アプリのアンケート機能の結果を共有して分析することを通して、小中が連携した「運動機会の充実を図る環境整備」が可能となった。



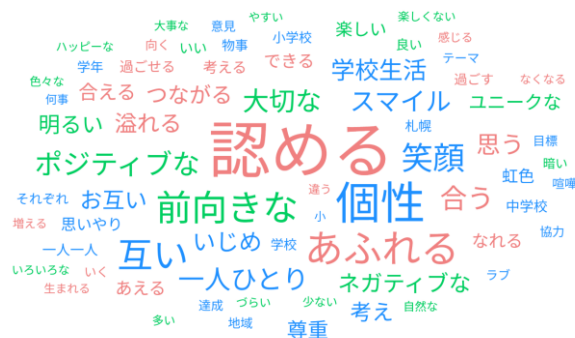
小中オンラインミーティング(年6回)



教職員による「小中連絡協議会」の様子(年3回)

## 2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

生徒会執行部を中心に、平岡緑中学校区スマイルプロジェクトの一環として検討を行った。3校が並行して運動機会の充実を図り、平岡緑中校区の児童・生徒の笑顔を増やすためにはどのような取組がよいのか、オンラインミーティングを通して意見の交流を行った。その際に、小学校と中学校で購入物品や取組が同じにならないように、定期的に進捗を確認し合い校区として活動



9年間の生活で大切にしたいことのテキストマイニング

が同じにならないように議論を重ねた。小学校ではモルックや体力向上に関わる物品を中心に購入し、中学校では「大人数で取り組める」「みんなでできる」をポイントに物品を検討した。本校では、生徒アンケートの結果から、校区の児童・生徒の「願い」として「互いを認め合える」環境づくりや、友人同士の「つながり」を大切にしたいという意識がテキストマイニングの結果から見られたことや、本校の課題として「好きだが機会が無い」という意識をもつ生徒でも取り組めることを重視して、活動内容を検討した。

## 3. 備品購入後の活動の様子



購入物品： ボッチャボール（2組）、パラバルーン（8m, 2個）等

本校では昼休みの時間に体育館を生徒に開放し、自由に運動することができるようになっているが、競技がバレーボールとバスケットボールのみの実施となっている。そのため、運動に得意な意識をもつ一部の生徒ばかりが体育館を使用し、利用者が固定化されているという課題が挙げられた。そこで、球技だけではなく、運動に抵抗感のある生徒も含めて参加できるものという視点で生徒会執行部を中心に検討を重ねた結果、「ボッチャ」と「カラフルバルーン」「紅白玉入れセット」の購入を決めた。また、小中学生が活動の様子をまとめたスライドや動画を見るなど交流し、小中一貫して取り組むことの大切さを、子ども自身が意識することができた。

## 4. 課題の改善状況

実際に使用した子どもたちから、「球技はできないけどこれなら参加できる」や「得意な一部の人だけじゃなくて、みんなでできてよい」などの声が複数聞かれたことから、本校の課題に対する一定の解決策の一つとして活用できたと考えられる。今後、継続して使用を拡大し、更なる課題の改善を目指していきたい。

# 「校区で取り組むスマイルプロジェクト」

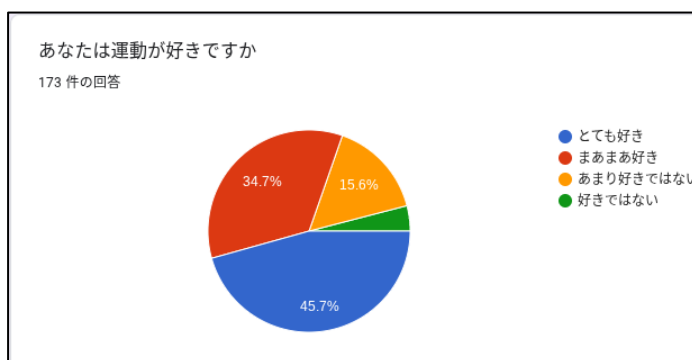
## 札幌市立平岡公園小学校

### 1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

平岡緑中学校区の3校（平岡公園小学校、三里塚小学校、平岡緑中学校）では、今年度よりランドデザインを改定し、各分野での小中一貫した教育の充実に資する取組を実施している。運動機会の充実も同様に、小中一貫した教育の具体的取組に位置づけることで、各校バラバラの取組ではなく、9年間を見通した共通の目標・共通の子ども像に向かって取り組むことが可能となった。今年は「プラスのまほう」のなかから、特に「S：スマイル」を校区の重点として設定をしたため、運動機会の充実を通して、校区の児童生徒の「笑顔」が増える取組という視点から検討を行った。具体的な取組として、子ども同士のつながりである「児童会・生徒会オンラインミーティング」、教職員同士のつながりである「小中連絡協議会」の開催が挙げられる。これらの場面で情報交流を図ったり、体力テストの結果を共有して分析したり、様々な交流を通して、パートナー校同士で連携した「運動機会の充実を図る環境整備」が可能になったと考える。

### 2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

① グーグルフォームを活用し、子どもたちから運動アイデアを募集する。



「こんな運動があったらやってみたい」と思う運動はありますか。

こちらに文章で書いてください。  
101件の回答

- 全校で猛獣狩りに行こうよ集まった人と何かをする
- タグラグビー
- キャッチボール
- やったことないけど、ビーチバレーのボールでも体育館でバレーボールをやりたい
- ・ポッチャ
- ・モルック
- 走って、投げて、取って、みんなでできて、楽しい運動
- まとあてがいいとおもいます。

② 募集したアイデアをもとに、運動内容を決め、必要物品を購入する。

③ 書記局が中心となり、「スマイルプロジェクト」の一環として、体力向上の取組を紹介する動画の作成。

④ パートナー校の児童会・生徒会で使用しているクラスルームで、撮影した動画を交流し、各校で他校の紹介を進め、活動意欲のさらなる向上を図る。

### 3. 備品購入後の活動の様子

購入品 バランスディスク  
価格 3,600 円(1 個)



購入品 ラダーセット  
価格 4,910 円(1個)



購入品 長座体前屈測定器  
価格 12,320 円(1 個)



ぐらぐらバランスの場



すばやくステップの場



やわらかリラックスの場

- ・ 休み時間に、学年ごと実施した。既存の物も活用しながら、上記以外にも、「ゴム跳びの場」や「長なわ跳びの場」、「ドッジビーを投げる場」を作った。
- ・ 誰でも運動に親しみやすいよう、簡単に組み立てる場を作った。
- ・ 活動終了後に、活動の様子をスライド編集し、各校で交流した後放映した。

### 4. 課題の改善状況

#### 〈成果〉

- ・ 年度始めに行ったアンケートでは運動に対して積極的である児童は 80%程度であったが、年度末の児童アンケートでは 88%に上昇していた。
- ・ 興味関心に合わせて、体を動かしたい場を選べるような設定にしたことで、苦手な子も運動に親しみやすかった。パートナー校の運動紹介動画を見ることで、「あの運動をやってみよう！」と、さらなる運動意欲の向上が見られた。

#### 〈課題〉

- ・ 活動準備の時間的な制約があり、物品購入や場の設定などは、担当者を中心に決定した。活動の詳細決定にも児童が積極的に参加できるよう、委員会活動と連携したり、パートナー校の「オンラインミーティング」の議題としたり、より自主的な活動を目指したい。
- ・ 年度末に実施した教職員へのアンケートでは、特に冬季期間における、運動機会の充実を改善したいという先生方の声が多かった。ワークスペースを活用した運動機会を模索し、モルック研修会を行った。次年度に向けて、体育館以外での運動機会の充実も模索したい。

# 「校区で取り組むスマイルプロジェクト」

札幌市立三里塚小学校

## 1. 体力向上に関する【問題意識】を明確にする活動

平岡緑中学校区では、平岡緑中学校、平岡公園小学校、三里塚小学校3校の担当児童同士が活動を共有する「オンラインミーティング」を実施している。その中で、3校は今年度の重点目標を「プラスのまほう」の中から「スマイル」に設定した。昨年度からの共通した取組などの中で出てきた「中学校に笑顔で進学できる環境を整えたい」「各学校の取組でみんなを笑顔にしたい」という子どもたち自身の意識からの設定である。

体力向上については、三里塚小学校スポーツイベント委員会で話し合い「運動が好きな人と嫌いな人が分かれている」「休み時間にはもっとみんなで体を動かしてほしい」という声があがった。そこで、「みんなが楽しみながら運動をできる活動を考えよう」と取組をスタートさせた。

## 2. 課題解決に向けた取組を【一緒に考える】活動

まずは、自分たちがこれまで体育科の学習や、休み時間などで行った運動の中で、「楽しかった」「もっとやりたかった」というものを出し合う活動から始めた。子どもたちからは「ティーボールの学習が楽しくて、もっと試合をしたかった」「バスケットボールのシュートの練習をもっとしたかった」「スポーツテストの前にもっと練習をしたかった」「シニアスクールの方で行ったモルックが楽しかった」「クラブ活動のバドミントンが楽しかった」など様々な意見が出された。



ここで出された「もっと〇〇したかった」という意見をピックアップし、どのようなものや場があれば解決していけるかを考えた。その結果、スポーツイベント委員会の児童が「これがあればもっと〇〇できそう」というものを選び、全校児童に、どんなものが欲しいかアンケートを取ることにした。アンケートを実施する際には、低学年と高学年に分け、馴染みのあるものから選んでも

らうことにするとともに、「運動に親しむことができる」「運動を楽しむことができる」ものを選ぶよう呼びかけた。

### 3. 備品購入後の活動の様子

前述のアンケートの結果、以下の備品を購入することとした。

購入品	ポッチャセット	購入品	ジャンボバドミントンセット	購入品	タグ10本組
価格	3,200 円	価格	2,690 円	価格	3,330 円
個数	13セット	個数	13セット	個数	31セット

購入した備品は、各学級に配布し、休み時間や体育の学習、学級活動等で活用してもらうこととした。

実際の使用にあたっては、休み時間の教室割当を変更し、これまで休み時間の使用を不可



としていた多目的室をポッチャ用に開放した。その結果、多くの児童が参加し、普段あまり積極的に体を動かさない児童の姿も多く見られた。

タグについては、体育館での遊びの際に使用する姿が多く見られている。これまでも、体育館遊びの際は多くの児童が「鬼ごっこ」で体を動かしていたが、「しっぽ取り」の要素が加わったことで、より多くの児童が参加するようになるとともに、運動量も増えており、楽しみ

ながら体を動かす様子が見られている。

バドミントンセットについては、通常よりも大きなサイズのバドミントンセットを購入した。これはスポーツイベント委員会児童の「苦手な人でも楽しめるように学校には無い、大きなものにしたい」という思いからである。今後使用していくこととなるが、運動が苦手な児童も楽しみながら体を動かすことが期待できる。

また活動の様子については、前述の「オンラインミーティング」で共有し、取組の様子を確認した。今後、活動の様子の共有だけではなく、購入した備品を共有するなど、3校で「楽しみながら体を動かす」ことのできる環境を整備していきたい。



### 4. 課題の改善状況

「ポッチャ」や「バドミントン」は普段の体育の学習では行うことのない運動であり、どの子も楽しみながら運動する様子が見られる。また、仲間と行う競技であることから、人間関係の広がりが見られた学年もあった。今後も継続的に使用していくことで、運動に親しむ態度を育てていきたい。